

報恩講

二〇一八年
十月三日～五日

門首後継者 大谷暢裕師御参修

法話 澤田 秀丸 師

大阪教区第十二組清澤寺前住職

真宗大谷派

天満別院

報恩講日程

十月三日（水）
初逮夜 午後一時半
御傳鈔拝読 午後二時半
法話一席

十月四日（木）
日中 午前九時半
結願逮夜 午後一時半
帰敬式執行 午後二時半
法話一席

十月五日（金）
報徳会 午前十時
結願日中 午後一時半
法話一席

発行 真宗大谷派（東本願寺）天満別院
大阪市北区東天満一―八―二六

電話 六三五一―三五三五
代表者 輪番 武宮 信勝



澤田秀丸師

◆法話御講師 澤田 秀丸師
1934年、大阪生まれ。
本山出版部長、山陽教区教務
所長、姫路船場・広島・茨木・
岡崎・旭川等別院輪番、同朋会
館・真宗本廟教化教導、大谷婦
人本部事務局長を歴任。



大谷暢裕師

◆門首後継者 大谷暢裕師
略歴につきましては、先月号
の「六字城」をご確認ください。

◆別院報恩講御参修
門首後継者をお迎えして

六字城

発行 真宗大谷派（東本願寺）天満別院
大阪市北区東天満一―八―二六

電話 六三五一―三五三五
代表者 輪番 武宮 信勝

十月の法座・行事

二日・真如上人御祥月御命日
（午前八時）

三日～五日・報恩講（日程は表紙参照）

五日・教如上人御祥月御命日

十二日・闡如上人御命日
（午前八時）

十三日・闡如上人御祥月御命日
（午前八時）

十四日・巧如上人御祥月御命日
（午前八時）

二十七日・宗祖聖人御逮夜
（午後二時）

二十八日・宗祖聖人御命日
（午前八時）

※ 諸般の事情により今月の同朋の会、
定例法話、正信偈書写の会はお休みと
させていただきます。

◆京都の親鸞さまに 遇いにいきましよう！

先月号でもご案内いたしました、
真宗本廟では来る十一月二十一日（水）
から二十八日（水）にかけて「御正忌
報恩講」が厳修されます。

天満別院門徒会といたしましては、
左記の日程で「御正忌報恩講」へ中型
バスにて団体参拝を計画しております。
す。ご門徒の皆様におかれましては、
今月号の「六字城」に同封してありま
すご案内をご確認ください。皆様お誘
い合わせのうえ、是非ご参加くださ
いますようご案内申し上げます。

**日時 二〇一八年
十一月二十三日（金・祝日）**

天満別院 午前八時出発

参加費 お一人様 五千円

尚、今年度は輪番が十一月二十七日
（火）の日中に全国専任輪番会の一員
として出仕されます。御同伴の方は申
し出てください。

今月の天満別院伝道掲示板

生活の中で
念仏するのではなく
念仏の上に生活が
営まれる

和田 稠しげし

霊園・墓石

太田石材店

本社 〒536-0001
本店 大阪市城東区古市1丁目23番20号
〒530-0042
大阪市北区天満橋1丁目2番18
TEL 06-6930-5075
0120-30-5075
FAX 06-6930-5078

報恩講、講師より一言

澤田秀丸師

武宮信勝ご輪番からの「法話依頼状」に「一人の念仏者の誕生をと思いつつ」と報恩講厳修の思いが記されていました。報恩講は、正にこの「念仏者の誕生」を願いとするお仏事でございます。念仏者とは、仏さまの名である南無阿弥陀仏のお念仏をとる人のごことです。ただ声に出して歌うように唱えることではありません。
「称名念仏」と言われる「称」は、つりあう、たたえるという意味を持つところから、念仏者とは仏さまの名に相應しく称える人、そして南無阿弥陀仏の名のはたらきを讃えて称える人をいいます。すなわち念仏は、信心をうながす仏心であります。親鸞聖人の信心のお歌「浄土和讃」を通して、念仏の心を味わいたいと思います。

◆秋季彼岸会並総永代経法要兼墓地納骨（物故者）追弔法要

去る九月二十四日（月）、秋季彼岸会並総永代経法要兼墓地納骨（物故者）追弔法要を勤修致しました。法要後の法話には大阪教区第十五組西稱寺住職宮部渡師に四苦「生・老・病・死」四門出遊の話や六道輪廻について自身がどこにいるか等についてお話いただきました。

◆天満別院報恩講の
お手伝いをお願い

来る十月三日から五日まで例年のごとく天満別院報恩講を厳修いたします。つきましてはご門徒のご婦人の皆様にお手伝いをお願いしたいと存じます。一日だけでも結構です。ご参加いただきますようお願い申し上げます。

日程

十月四日（木）

八時三十分～十七時迄

十月五日（金）

九時～十七時迄

初めての「報恩講」の
お迎えにあたって

輪番 武宮 信勝

南森町を横切る国道一号线。夜遅く自宅帰りの道を歩いていたら、車の走る音にか涼やかな虫の声が聞こえてきました。しばし足を留め音色に聞き入りました。大都会の街中でも秋を告げてくれる虫たちに感動したひと時でした。当輪番に就任して、何事も初めて迎

える諸行事。そして今、お迎えする宗祖親鸞聖人の御正忌報恩講。御本山から大谷暢裕鍵役（門首後継者）ご夫妻に御参修していただくことで、着任早々から準備に関わってきました。教化委員会、別院門徒会・婦人部会の方々、一丸となつて、如来聖人（親鸞聖人）のご遺徳を偲び、お念仏の教えに遇い、人として生きる依りどころをいただいたご恩に、皆さんとご一緒に報いたいと願っています。私の亡き父が遺した詩

「初旅なればみずみずしゅう
最後の旅なれば名残惜しゅう」

人生の旅路は一日一日が初ごと、昨日の私に帰ることはできませんし、明日の私を今、生きることはできません。一日一日がみずみずしく初めての事であります。だからこそ尊い。まっさらな朝を迎えることができた歓び、食物をいただくことの有難さ……。何もかも我一人のためなりき、今日一日のいのち尊しでありましょう。日々新たな日常を見過ごしていた私を気づかしめていただきます。

この法要を機縁として、皆様との出会いがますます深まっていくことを楽しみにしていることです。

「和讃のおはなし」

真宗大谷派 鍵役

宣心院 大谷 暢文

『勢至讃（三）』

十二の如来あひつぎて
十二劫をへたまへり
最後の如来をなづけてぞ
超日月光とまふしける

（十二の如来さまが相次いで、それぞれが一劫ずつこの世を受け継いでくれました。そして最後の如来さまを名づけて、超日月光と申し上げるのです。）

『勢至讃』三首目は、前の一首とつながって一つの意味をなしていますが、今回はその後半部分を見えます。前回も挙げましたが、十二佛とは、無量光佛・無辺光佛・無礙光佛・無対光佛・炎王光佛・清浄光佛・歓喜光佛・智慧光佛・不断光佛・難思光佛・無称光佛、そして

て超日月光佛です。十二佛については、『首楞嚴經』と『浄土三部經』との違いはありますが、親鸞聖人は『大無量寿經』の「このゆゑに無量寿佛をば、無量光佛・無辺光佛・無礙光佛・無対光佛・焰王光佛・清浄光佛・歓喜光佛・智慧光佛・不断光佛・難思光佛・無称光佛・超日月光佛と号す」からの十二佛をとらえられています。つまり、十二佛とは仏さまが十二人いらっしゃるのではなく、元は阿弥陀さまお一人ですが、特にその光明のお徳を表現するために、あえて十二の佛（如来）として表したのです。

阿弥陀さまの光明について『大無量寿經』では、「無量寿佛の威神光明は、最尊第一なり。諸仏の光明、及ぶことあたはざるところなり」とおっしゃっています。阿弥陀さまの光明のお徳は、最も尊く優れていて、どの仏がたも及ぶところがないのです。

その光明のすばらしさを挙げてみますと、

① 量ることのできない光（無量光）
② 際限のない光（無辺光）

③ 何ものにも遮られない光（無礙光）

④ 比べるもののない光（無対光）

⑤ 最高の輝きをもつ光（炎王光）

⑥ 衆生の貪りを除く清らかな光（清浄光）

⑦ 衆生の怒りを除き喜びを与える光（歓喜光）

⑧ 衆生の惑いを除き智慧を与える光（智慧光）

⑨ 常に照らす光（不断光）

⑩ 思い量ることのできない光（難思光）

⑪ 説き尽くすことができず、言葉も及ばない光（無称光）

⑫ 日や月を超え優れた光（超日月光）となりま

そして、最後の超日月光が、阿弥陀さまの光明のお徳を褒め称える最高の言葉なのでしょう。私たちの目にするもので、太陽や月の光ほど影響を与えるものはないからです。それをも超えて優れているのですから、阿弥陀さまの光明のお徳の程を知ることができるのではないのでしょうか。

天満別院ホームページ <http://www.tenma-betsuin.jp>

天満別院ホームページ <http://www.tenma-betsuin.jp>